

特集「オブジェクト指向データベースシステム」 の編集にあたって

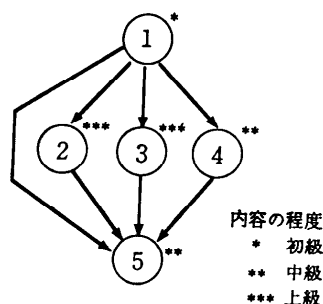
宮崎 収[†] 川越 恭二^{††}

コンピュータの応用分野が広がるにつれ、関係データベース (DB) では、CAD や CASE などの新しい応用には不十分であるとの声が高まってきた。このため、1980 年代特にその中ごろから新しい DB の研究開発が盛んに行われている。本特集ではこれらのうち、最も実用化が進んでいるオブジェクト指向 DB システムについて紹介する。そのほかの新しいデータベースについては、本誌第 28 巻第 6 号 (1987 年) でマルチメディア DB 特集が、第 31 巻第 2 号 (1990 年) で演繹 DB 特集がすでに掲載されている。また、オブジェクト指向 DB と密接な関係があるオブジェクト指向プログラミングについては第 29 巻第 4 号 (1988 年) にその特集が掲載されているので参考にさせていただきたい。

オブジェクト指向 DB は、オブジェクト指向アプローチにより、複雑な対象のモデル化と、その操作を容易に、かつ効率良く行うことを目的とした DB である。いまだその定義が不明確であるとか、理論的基盤が弱くシステムの開発研究が先行し過ぎていなどの批判もあるが、定義に関する最低限の合意は形成されつつあり、理論的基盤や実現技術に関しても広い範囲で研究成果が蓄積され始めている。本特集では、オブジェクト指向 DB システムの概要を知りたい読者のために概説的な解説を行い、さらに深く知りたい読者のために先端的研究状況や応用の紹介および将来の展望を行う。

本特集は目次にあるように、5 部 13 編の解説からなり、図のように関連づけられている。

第 1 部 (基本) は 3 編からなり、背景や基本的事項、システムの現状などを紹介する。概要だけ



本特集各部の関連図

を知りたい読者には第 1 部のみで十分であることを意図している。

第 2 部 (実現技術) の 3 編および第 3 部 (技術的諸問題) の 3 編では、技術課題について先端的研究状況を解説することにより、DB やオブジェクト指向プログラミングなどに興味をもつ読者に本分野をより深く理解していただくことを意図している。

次に第 4 部 (応用) の 3 編では CASE, CAD, エンジニアリング業務支援などへのオブジェクト指向 DB の応用に関する研究の状況を紹介する。

第 2 部から第 4 部までは図に示すように独立しているため、第 1 部で概要を理解した後、興味のあるトピックスを任意の順序で読んでいただくことができる。

最後に第 5 部 (展望) では DB システムのあるべき姿や今後の展望を述べる。第 5 部は第 1 部の後直接読んでいただくこともできるが、技術や応用の部を読まれてからならば、より理解が深まると思われる。

本特集の企画にあたってご指導をいただいた図書館情報大学の増永良文教授と神戸大学の田中克己助教授、ならびに著者、査読者の方々に感謝いたします。

(平成 3 年 4 月 1 日)

[†] 神電気工業(株)総合システム研究所

^{††} 日本電気(株)C & C システム研究所